



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月6日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2112 URL <http://www.ensuiko.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 裕司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理担当 (氏名) 内海 和男 (TEL) 03-3249-2381
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	13,154	△3.2	316	△14.8	343	15.2	232	53.9
26年3月期第2四半期	13,593	△6.8	371	28.1	298	19.4	150	24.2

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 167百万円(△46.3%) 26年3月期第2四半期 311百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	8.65	—
26年3月期第2四半期	5.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	24,994	6,482	25.9
26年3月期	25,416	6,538	25.7

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 6,482百万円 26年3月期 6,538百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,000	△1.0	640	△15.9	580	△0.6	300	11.0	11.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー社(社名)ー 、除外 ー社(社名)ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	35,000,000株	26年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	8,140,074株	26年3月期	8,140,074株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	26,859,926株	26年3月期2Q	26,859,926株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策の効果もあって緩やかな回復基調にあるものの、消費税率引き上げに伴う消費低迷の長期化などにより依然として先行き不透明な状況にあります。

砂糖業界におきましても、加糖調製品などの影響による砂糖消費量の漸減傾向が続き、消費動向は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは基幹事業である砂糖事業（国内精糖及びその他糖類）並びにバイオ事業における売上高・利益計画の達成に向けて全力で取り組んで参りました結果、当期の業績及びセグメントごとの業績は以下のとおりとなりました。

① 砂糖事業

海外原糖市況につきましては、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）は17.77セントで始まり、エルニーニョの発生懸念により一時値を上げ5月中旬には18.28セントの高値となりました。その後主要生産国であるブラジル中南部のサトウキビ収穫ペースが順調であったことから下げ基調に転じ、9月中旬には13.32セントの安値となり、結局15.48セントで当期を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり）につきましては、期初185～186円で始まり、同一水準のまま当期を終了しました。

国内精糖及び異性化糖などの国内販売につきましては、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動及び需要期における天候不順等の影響により、販売数量は前年同期を下回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は12,128百万円（前年同四半期比3.2%減）、セグメント利益は759百万円（前年同四半期比7.0%減）となりました。

② バイオ事業

オリゴ糖につきましては、家庭用「オリゴのおかげ」の商品価値の啓蒙と正しい使い方などの理解普及に引き続き努めサンプリングなどを積極的に実施しましたが、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動等により、前年同期をやや下回りました。一方、サイクロデキストリン（CDと略称。）につきましては、食品分野のほか、非食品分野への拡販に努めるとともに、血糖値上昇抑制と体脂肪蓄積抑制作用を有する「サラシア属植物」を原料とする加工製品「サラシア属植物エキス末」の販売にも努めた結果、売上高が前年同期を上回りました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は668百万円（前年同四半期比2.0%減）、セグメント利益は66百万円（前年同四半期比12.8%増）となりました。

③ 不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸及びニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用にも努めました結果、売上高は400百万円（前年同四半期比6.8%減）、セグメント利益は23百万円（前年同四半期比0.6%減）となりました。

以上の結果、当期の売上高は13,154百万円（前年同四半期比3.2%減）、営業利益は316百万円（前年同四半期比14.8%減）、持分法適用会社の業績改善に伴う持分法投資利益の計上等により、経常利益は343百万円（前年同四半期比15.2%増）、四半期純利益は232百万円（前年同四半期比53.9%増）となりました。

研究開発につきましては、抗がん剤の副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」の実用化を目指し、引き続き共同研究を進めております。また、「米粉を原料とした乳化機能を有する食品素材」の開発につきましては、大量生産製法技術の実用性評価を行い、商品化へ向けて食品への利用開発に取り組まれました。さらに、バイオプラスチックの原料となり得る「グルカル酸」の安価な製造法の開発並びに応用研究に取り組まれました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて422百万円減少し、24,994百万円となりました。

これは主に、現金及び預金258百万円の減少、受取手形及び売掛金340百万円の減少並びに原材料及び貯蔵品237百万円の減少等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べて366百万円の減少し、18,511百万円となりました。

これは主に、有利子負債234百万円の減少等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて55百万円減少し、6,482百万円となりました。

これは主に、上場有価証券の時価評価額68百万円減少等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月9日付で公表いたしました当第2四半期累計期間の業績予想につきましては、平成26年10月27日に修正を行い、営業利益、経常利益、第2四半期連結純利益が当初予想を上回る結果となりました。

なお、平成27年3月期の通期連結業績予想につきましては、平成26年5月9日公表の業績予想から変更はありません。

今後、何らかの変化が生じた場合、適時適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が94百万円増加し、利益剰余金が60百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,368	1,109
受取手形及び売掛金	1,966	1,625
商品及び製品	729	1,385
仕掛品	235	230
原材料及び貯蔵品	1,238	1,001
繰延税金資産	135	86
その他	1,118	1,155
流動資産合計	6,791	6,595
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,655	9,663
減価償却累計額	△5,327	△5,442
建物及び構築物(純額)	4,328	4,220
機械装置及び運搬具	11,109	11,135
減価償却累計額	△9,451	△9,585
機械装置及び運搬具(純額)	1,657	1,550
工具、器具及び備品	417	448
減価償却累計額	△362	△370
工具、器具及び備品(純額)	54	77
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	39	36
有形固定資産合計	11,314	11,120
無形固定資産		
ソフトウェア	62	47
その他	11	6
無形固定資産合計	73	53
投資その他の資産		
投資有価証券	4,946	4,834
長期貸付金	1,381	1,427
繰延税金資産	823	885
その他	85	76
投資その他の資産合計	7,236	7,224
固定資産合計	18,624	18,398
資産合計	25,416	24,994

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	981	992
短期借入金	8,700	7,630
1年内返済予定の長期借入金	3,117	2,600
未払法人税等	125	51
未払消費税等	93	216
賞与引当金	80	80
その他	1,123	865
流動負債合計	14,221	12,436
固定負債		
長期借入金	3,293	4,646
退職給付に係る負債	1,045	1,086
その他	317	342
固定負債合計	4,656	6,075
負債合計	18,878	18,511
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,932	7,942
自己株式	△3,117	△3,117
株主資本合計	6,832	6,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△280	△348
繰延ヘッジ損益	△11	△6
退職給付に係る調整累計額	△3	△4
その他の包括利益累計額合計	△294	△359
純資産合計	6,538	6,482
負債純資産合計	25,416	24,994

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	13,593	13,154
売上原価	11,434	11,028
売上総利益	2,159	2,125
販売費及び一般管理費	1,787	1,809
営業利益	371	316
営業外収益		
受取利息	20	19
受取配当金	55	55
持分法による投資利益	—	9
その他	6	8
営業外収益合計	82	93
営業外費用		
支払利息	68	57
持分法による投資損失	81	—
その他	6	9
営業外費用合計	156	66
経常利益	298	343
特別利益		
投資有価証券売却益	10	—
特別利益合計	10	—
特別損失		
投資有価証券売却損	15	—
ゴルフ会員権評価損	—	0
特別損失合計	15	0
税金等調整前四半期純利益	293	343
法人税、住民税及び事業税	100	55
法人税等調整額	42	55
法人税等合計	143	111
少数株主損益調整前四半期純利益	150	232
四半期純利益	150	232

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	150	232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	146	△59
繰延ヘッジ損益	0	4
退職給付に係る調整額	—	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	13	△9
その他の包括利益合計	161	△64
四半期包括利益	311	167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	311	167
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	293	343
減価償却費	360	352
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△61	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	△54
賞与引当金の増減額(△は減少)	3	△0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△14	—
受取利息及び受取配当金	△76	△75
支払利息	68	57
為替差損益(△は益)	△7	△2
持分法による投資損益(△は益)	81	△9
投資有価証券売却損益(△は益)	4	—
ゴルフ会員権評価損	—	0
売上債権の増減額(△は増加)	300	340
たな卸資産の増減額(△は増加)	△482	△416
仕入債務の増減額(△は減少)	△298	10
その他	△41	△69
小計	130	476
利息及び配当金の受取額	72	75
利息の支払額	△84	△57
法人税等の支払額	△57	△129
法人税等の還付額	8	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	68	365
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△169	△189
無形固定資産の取得による支出	△12	△3
投資有価証券の売却による収入	98	—
貸付けによる支出	△510	△530
貸付金の回収による収入	469	489
その他	7	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△116	△231
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,500	△1,070
長期借入れによる収入	—	2,600
長期借入金の返済による支出	△1,569	△1,764
配当金の支払額	△134	△161
財務活動によるキャッシュ・フロー	△204	△396
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△245	△258
現金及び現金同等物の期首残高	1,414	1,368
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,169	1,109

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,512	668	413	13,593	—	13,593
セグメント間の内部売上 高又は振替高	10	13	16	40	△40	—
計	12,522	682	429	13,634	△40	13,593
セグメント利益	816	58	23	898	△526	371

(注) 1 セグメント利益の調整額△526百万円には、セグメント間取引消去△9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△517百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,117	652	384	13,154	—	13,154
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	16	16	43	△43	—
計	12,128	668	400	13,197	△43	13,154
セグメント利益	759	66	23	848	△531	316

(注) 1 セグメント利益の調整額△531百万円には、セグメント間取引消去△7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△524百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、報告セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に變更いたしました。

なお、当該変更による各報告セグメント利益又は損失に及ぼす影響は軽微であります。